

平成22年度終了課題に係る終了評価書

研究機関 : 三菱電機(株)、(株)日立製作所、(株)パスコ
(株)横須賀テレコムリサーチパーク

研究開発課題 : ユビキタス・プラットフォーム技術の研究開発
(ユビキタス空間情報基盤技術)

研究開発期間 : 平成20年度～平成22年度

代表研究責任者 : 三菱電機(株) 久野徹也

■ 総合評価(SABCDの5段階評価) : 評価 B

■ 総合評価点 : 36点

(総論)

基本計画書における目標は達成できている。

プラットフォームとしての普及展開、今後の商用化を期待したい。

(コメント)

- 通常の意味での実験はできているが、プラットフォームとしての実績や今後の普及展開について、さらに深掘りして欲しかった。
- 今後の商用化を期待したい。商用化を検討する際には、国や総務省の動向等を考慮して進めるべきである。
- 商用化にあたってはビジネスを考えるスタッフを加える等の工夫も必要かもしれない。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

方向性は明瞭かつ妥当である。

(コメント)

- 多様な応用に使えるプラットフォームの研究開発は重要である。
- これからの日本の問題を解決すべく、目標設定している点は評価できる。一方、少子高齢化、環境等の社会的課題と結びつけて、広く目標設定することも可能ではなかったか。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

(総論)

各項目間のつながり、関係が見えにくかった印象がある。

(コメント)

- 4社および外部識者との会合(研究開発委員会)を頻繁に実施している。
- 各項目の連携がもっと見えるようなマネジメントが可能だったと思われる。
- プラットフォームでは、それぞれ豊富なアイデア(アプリケーション)が、共通基盤を共用できることが重要である。実証実験により、多くのアプリケーションが行われているが、プラットフォーム共用にあたって、アイデアの独立性とプラットフォームの協調性を両立するマネジメントを説明すべきである。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

(総論)

技術的には、目標を達成している。

(コメント)

- ここで開発したプラットフォームで何ができるようになったか、プラットフォームとしての実績について、踏み込んだ説明が欲しかった。
- 商用化の実績が少なく、また成果が見えづらい。
- 国際的ベンチマークとの比較が不十分だった印象がある。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

(総論)

いろいろな実験をしており、活動実績はある。

(コメント)

- 多くの活動があるがこれらの実験だけでは、必ずしもビジネスに結びつかない例のように思える。
- より多くの論文発表、標準化提案が可能だったと思われる。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 5点

(総論)

今後の商用化を計画している点は良いが、より具体的な成果展開、知財戦略、実用化への指針が必要に思われる。

(コメント)

- このような技術の商用化は、必ずしも簡単ではないが、小さな例からでも良いので具体的な目的を探して推進して欲しい。
- 他プロジェクトとの協調なども含めて、今後のビジネス展開をさらに加速して欲しい。
- ucode は優れたアイデアであるが、これを社会化するときの業務主体、ビジネスとしての世界的展開など、過去から指摘されていたことが進んでいない状況にある。このプラットフォームの展開はそのような基本問題を解決する第一歩になると考えるので、より具体的な計画により、正面から取り組んでいただきたい。